

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：37102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24501274

研究課題名(和文)新学芸員養成課程に対応するユニバーシティ・ミュージアムの方策研究

研究課題名(英文)Actual Research of University museum corresponding to the new curator training course

研究代表者

緒方 泉(OGATA, izumi)

九州産業大学・美術館・教授

研究者番号：10572141

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本で最初のユニバーシティ・ミュージアムに対する経年調査であった。3年間の調査は、資料収集、予備的考察、アンケート調査、現地悉皆調査、調査内容分析、考察・学会発表という5段階で展開した。平成24年度から平成25年度前半までに東日本地域、西日本地域の大学博物館からアンケートを回収、調査内容分析を行なった。その後前回調査(平成16年度、17年度)との比較研究を開始した。最終年度は特にユニバーシティ・ミュージアムを起点とした、学内実習と館務実習のスムーズな連携による学芸員養成機能の充実方策研究を行い、学芸員研修、国際フォーラムを開催すると共に、学会等で発表し、成果公開に努めた。

研究成果の概要(英文)：This research was a secular study for the first University Museum in Japan. Three years of the survey was developed in five stages that collecting data, preliminary discussion, questionnaire survey, local exhaustive investigation, research content analysis, discussion, conference presentations. East region until the 2013 fiscal first half from the 2012 fiscal year, the collected questionnaires from the University Museum of western Japan, was carried out the survey content analysis. Then I started a comparative study with the previous survey (2004 and 2005 fiscal year). Last year was especially starting from the University Museum, conducted to enhance policy research, curator training function of the smooth cooperation of campus training and off-campus training, curator training, it is possible to hold an international forum, announced at a conference, etc., I tried on the results public.

研究分野：博物館人材育成論

キーワード：大学博物館 学芸員研修 国際研究者交流 国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

ユニバーシティ・ミュージアムは、大学知の集積の場であり、大学史や大学の今(=教育研究の成果)を広く公開する場である。そうした実証的な学問を支える意味において欧米では古くから大学に不可欠なもの(最古の事例は1534年設置のイタリア、ピサ大学植物園)とされてきた。しかし、わが国においてはごく一部の大学博物館の例はあるものの(日本最古の事例は1874<明治7>年設置の東京大学理学部附属植物園、私立大学は1905<大正14>年設置の東京農業大学農業資料館が最古)多くの大学では博物館といえるほどのものは組織化されてこなかった。

平成8年1月、学術審議会学術情報資料分科会学術資料部会「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について(報告)」(以下、学審報告とする)は、ユニバーシティ・ミュージアムを研究教育の拠点であると共に「『社会に開かれた大学』の窓口として展示や講演会等を通じ、人々の多様な学習ニーズにこたえることができる施設でもある」と定義した。

これを受けて、近年各大学の施設設置への取り組み機運が高まり、平成23年10月現在、260館を超える多彩な館種(総合系、歴史系、自然科学系、美術系、動植物系、水族系など)のユニバーシティ・ミュージアムが設置されるまでに至った。しかしながら、その全国的な実態調査は決して十分なものとは言えず、博物館学における「ユニバーシティ・ミュージアム研究」も未開拓な領域であった。

このような状況のもと、申請者が平成16~17年度2カ年の実態調査研究の成果をまとめた「全国ユニバーシティ・ミュージアム総覧」の刊行(平成19年2月)は、「ユニバーシティ・ミュージアム研究」の端緒を作った。そこで明らかになったことは、学審報告から5年経過した平成13年の調査(株式会社トータルメディア開発研究所「日本の大学博物館」)で115館だったものが、204館と倍近い数に増加していたことだった。

アンケート調査は「博物館基本情報」、「組織体制」、「施設の構成」、「予算」、「展示」、「収蔵品の調査研究、公開」、「外部資金の導入」、「博物館実習」、「社会貢献事業」、「大学博物館が抱える問題について(自由記述)」という10項目の質問紙法で実施、その分析結果から以下のことが把握できた。

「社会に開かれた大学の窓口」の視点では、93%が利用対象を一般住民まで開放し、78%が無料入館だった。また企画展・特別展は72%、教育普及事業は66%の館で実施していた。しかし、ボランティア導入は16%に留まった。「調査研究」の視点では、収蔵品データベースがある館は39%、外部資金導入がある館は27%にしか過ぎなかった。さらに「博物館実習」については、実習生を受け入れている館は50%と、大学の附属機関でありながら、大学の学芸員養成課程と十分に連動していないところが多いことがわかった。また、それぞれが抱える課題は、「予算の減少」「専任職員がいない」「収蔵資料の未整理」「資料購入費がない」「収蔵庫が飽和状態」「施設の老朽化」と多岐にわたっていた。

ところで、国は平成21年4月1日付けの文部科学省生涯学習局長名で、全国の教育委員会、国公私立大学長などへ、「図書館法施行規則の一部を改正する省令及び博物館法施行規則の一部を改正する省令等の施行について(通知)」(以下、省令通知という)及び「博物館実習ガイドラインについて(通知)」(以下、ガイドライン通知という)を通知した。

注目したいのは、省令通知「留意事項3(1)」に「大学等有する学術標本や研究資料等の資源を、博物館実習等において積極的に活用することに努めること」が明文化されていることである。またガイドライン通知で、博物館実習を「学内実習」と「館園実習」に分け、「学内実習」については延べ60時間から90時間程度以上を大学が責任を持って行うこととした。そしてその場所は「学内の附属博物館等を活用することが望ましい」としている。しかし、「大

学等が有する学術標本や研究資料等」を活用して、「学内の附属博物館等」で学内実習ができる環境をすべての学芸員課程開講大学が有しているわけではない。(平成21年度344大学で開講<全国794大学、開講率43.3%>、開講大学におけるユニバーシティ・ミュージアム設置率27.7%>)

前回の調査でも、ユニバーシティ・ミュージアムを活用していない開講大学が50%あった。新たな施設設置促進はもちろん、学芸員養成課程と連動した活用方策研究も急務である。

2. 研究の目的

全国の大学付属施設として、現在260を超えるユニバーシティ・ミュージアムが存在するものの、これまで実態を把握する基礎資料はほとんどなかった。申請者が平成16~17年度の2カ年にわたり調査したデータを基に、平成18年度刊行した「全国ユニバーシティ・ミュージアム総覧」は、ユニバーシティ・ミュージアム研究の端緒を作ることになった。

今回、その後増加した館も含め、わが国で初めてとなる経年調査を実施することで、さらなる基礎資料の充実を図るだけでなく、平成24年度から始まる新学芸員養成課程における博物館実習プログラムのモデル開発を含め、博物館学の新たな領域となる「ユニバーシティ・ミュージアム研究」の体系化を目指すことを研究目的としたい。

3. 研究の方法

本研究は、日本で初めて行うユニバーシティ・ミュージアムに対する経年調査である。研究計画は 資料収集、予備的考察 アンケート調査 現地悉皆調査 調査内容分析 考察・発表の5つの部分から成り立つ。研究方法は、平成16年度、17年度に実施した10の調査項目「博物館基本情報」₁、「組織体制」₂、「施設の構成」₃、「予算」₄、「展示」₅、「収蔵品の調査研究、公開」₆、「外部資金の導入」₇、「博物館実習」₈、「社会貢献事業」₉、「大学博物館が抱える問題について(自由記述)」を中心にアンケート調査を行い、比較研究する。また、平成24年度から開始する新学芸員養成課程に伴う「博物館実習」における館種(総合系、自然科学系、歴史系、美術系、動植物系、水族系など)毎の学内実習(60時間~90時間)プログラムを研究開発する。

4. 研究成果

本研究は、日本で最初のユニバーシテ

ィ・ミュージアムに対する経年調査であった。3年間の調査は 資料収集、予備的考察 アンケート調査 現地悉皆調査 調査内容分析 考察・学会発表という5段階で展開した。

平成24年度から平成25年度前半までに東日本地域、西日本地域の大学博物館からアンケートを回収、調査内容分析(統計処理、グラフ化)が進み、平成16年度、17年度に実施したアンケートとの比較研究を平成25年度後半から開始した。また、比較研究とともに、平成8年の学術審議会学術情報資料分科会学術資料部会「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について(報告)」で定義された「大学院・学部生の教育に参加するとともに、博物館実習を始め大学における学芸員養成教育への協力をおこなう、また一般の博物館の学芸員に対する大学院レベルのリカレント教育や、人々の生涯にわたる学習活動にも積極的に協力することが望ましい」という4つの機能から各々に特性を分析研究した。また、平成25年度は文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」の採択を受け、「京都・九州大学博物館連携展」学芸員技術研修会、さらに平成25年度全国大学博物館学講座協議会西日本部会大会などの開催により、多くの大学博物館関係者との交流が実現し、様々な情報校を収集することができた。

そして最終年度となった平成26年度は、特にユニバーシティ・ミュージアムを起点とした、学内実習と館務実習のスムーズな連携による学芸員養成機能の充実方策研究に注力した。実証研究の場として、現職学芸員を対象とした学芸員技術研修会、国際講演会を開催すると共に、日本ミュージアム・マネジメント学会、全日本博物館学会等で発表し、成果公開に努めた。

今後は、今回の科研費で得られた観学博物館ネットワークを維持しながら、大学博物館人材育成論の構築をさらに深化させていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

緒方泉、新学芸員養成課程に対応するユニバーシティ・ミュージアムの実態調査研究(1)、平成26年度日本ミュージアム・マネジメント学会要旨集 vol.1、査読なし、2014、23-24

緒方泉、学芸員の学習ニーズに応える研修プログラム開発と効果評価、全日本博物館学会第40回大会発表要旨集 vol.1、査読なし、2014、43-44

坂倉真衣、高田浩二、三宅基裕、三島美佐子、西嶋昭二郎、緒方泉、<科学リテラシーパスポート>を用いることによる利用者の気づきの変容-九州地区のワークショップ実

践事例をもとに、日本科学教育学会年会論文集 38、査読なし、2014、73-74

緒方泉、第5世代は機能分化する博物館である-博物館・美術館がある<道の駅>を事例として、2014 博物館学韓国・日本 国際フォーラム要旨集、査読なし、2014、107-110

緒方泉、九州産業大学美術館は教育の場である、博物館研究 No.553、査読有り、2014、6-9

緒方泉、子どもが・親が・大学生が、はじめてのアフリカ音楽との出会い、平成 25 年度文化庁地域発・文化芸術映像発信イニシアチブ「はじめての芸術との出会い事業」報告書、査読なし、2014、34-34

緒方泉、地域の子育ての場を大学が担う、平成 24 年度福岡市共働提案事業「はじめての芸術との出会い」報告書、査読なし、2013、12-12

〔学会発表〕(計 15 件)

緒方泉、新学芸員養成課程に対応するユニバーシティ・ミュージアムの実態調査研究(1)、平成 26 年度日本ミュージアム・マネジメント学会、2014 年 6 月 1 日、東京家政学院大学(東京都)

緒方泉、学芸員の学習ニーズに応える研修プログラム開発と効果評価、全日本博物館学会第 40 回大会、2014 年 6 月 29 日、明治大学(東京都)4

坂倉真衣、高田浩二、三宅基裕、三島美佐子、西嶋昭二郎、緒方泉、<科学リテラシーパスポート>を用いることによる利用者の気づきの変容-九州地区のワークショップ実践事例をもとに、日本科学教育学会、2014 年 9 月 15 日、埼玉大学(埼玉県)

緒方泉、第5世代は機能分化する博物館である-博物館・美術館がある<道の駅>を事例として、2014 博物館学韓国・日本 国際フォーラム、2014 年 11 月 28 日、韓国プレスセンター(韓国・ソウル)

M.Miyake,K.Takada,M.Mishima,

M.Sakakura,S.Nishijima,I.Ogata、Evaluation of the online database system Science Passport by relayed workshops、2015 年 2 月 12 日～16 日、SAN JOSE McENERY CONVENTION CENTER(米国、san jose)

緒方泉、博物館学の多様性と深化-大学博物館を事例として、第 1 回韓・日博物館交流協力と博物館経営マーケティング国際フォーラム(招待講演)、2013 年 12 月 14 日、済州島 KUMPO RESORT ホテル(韓国、済州島)

緒方泉、日本の学芸員制度の変遷と今後の方向性、九州産業大学国際フォーラム(招待講演)、2014 年 2 月 26 日、九州産業大学(福岡県)

緒方泉、地域とつながる、大学美術館がつなげる、南山大学人類学博物館開館記念シンポジウム「未来の博物館を考える」(招待講演)、2013 年 10 月 5 日、南山大学(愛知県)

緒方泉、土屋和美、尾形光歳、坂口裕子、大学美術館を活用したアートマネジメン

ト教育の実践と課題、第 2 回大学教育フォーラム(招待講演)、2013 年 12 月 12 日、九州産業大学(福岡県)

緒方泉、綿城裕美、アートで鍛える読解力-学芸員養成課程を通じた実践事例報告-、Q-conference2013(Q-Links 活動報告会)、2013 年 11 月 2 日、九州大学(福岡県)

緒方泉、大学美術館のアウトリーチ活動は市民そして学生を育てる、ICOM アジア太平洋地区研究集会、2012 年 12 月 1 日、国立歴史民俗博物館(千葉県)

緒方泉、生かす!活かす!いかす!地域の文化資源、みやこ町第 2 回古墳フォーラム(招待講演)、2012 年 11 月 24 日、みやこ町中央公民館(福岡県)

緒方泉、アートでまちづくりをデザインする、平成 24 年度田川市法人会総会(招待講演)、田川市中央公民館(福岡県)

緒方泉、大学美術館のアウトリーチ活動が市民そして大学生を育てる、平成 24 年度織田廣喜美術館美術講座(招待講演)、2013 年 3 月 3 日、嘉麻市立織田廣喜美術館(福岡県)

緒方泉、子どものコミュニケーションを育てる図工の時間をデザインする、平成 24 年度教員免許状更新講習(招待講演)、2012 年 7 月 28 日、九州産業大学(福岡県)

〔図書〕(計 2 件)

日本ミュージアム・マネジメント学会編、ミュージアム・マネジメント学事典、2014 総ページ数 540

黒沢浩編、緒方泉他共著、博物館展示論、講談社、2014、31-36

〔その他〕

ホームページ等

九州産業大学美術館

<http://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

緒方 泉(OGATA, Izumi)

九州産業大学美術館教授

研究者番号: 10572141